

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第180集

西一里塚遺跡群

西一里塚遺跡IV

長野県佐久市根々井 西一里塚遺跡発掘調査報告書

2010. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会

例 言

1. 本書は佐久市建設部高速交通課による地域活性化(ツチヅ)整備事業(中佐都IC)に伴う西一里塚遺跡IVの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市中込3056 佐久市建設部高速交通課
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地 西一里塚遺跡IV (N1IV) 佐久市根々井字鈴の免1412-1・1413-1
5. 発掘担当者 現場・整理作業 富沢 一明
6. 本書の編集・執筆は富沢が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略称は次の通りである。 M-溝跡 D-土坑
2. スクリーン表示は以下の通りである。

遺構	地山		遺物	須恵器断面		赤色塗彩	
----	----	--	----	-------	--	------	--

遺 構	溝跡 1/200	土坑1/80	ピット1/80
遺 物	弥生土器 1/2	須恵器1/2	

4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
6. 土層は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは4×4mである。
8. 遺物観察表中の()は残存高を示す。



西一里塚遺跡IV位置図 (1:100,000)



西一里塚遺跡IV位置図(1:1,000)

第I章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過

佐久地域は周辺を山地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北方には現在も活発な活動を続ける浅間山が聳えている。南には蓼科山、東は浅間山と蓼科山を繋ぐように北関東山地が連なり、南には御牧ヶ原・八重原といった台地が広がり、蓼科山の裾野と接している。佐久市の水系の代表は千曲川で、市内を二分するかのよう貫流し、北と南では地質学的にも大きく異なる。北は浅間山の山麓末端部に広がる平坦な台地で、浅間の噴火によって火砕流及び降下火山灰が厚く堆積している。この堆積層は雨水による浸食に弱く、浅間の麓から放射状に幾筋にも削り取られ、浸食谷を形成している。(田切り地形)これに対して、南側は千曲川の氾濫源沖積地及び周辺山間部の支流を集めた河川の谷口扇状地で、河床礫層と沖積粘土層地帯となる。また、周辺地域は地下水位も高く安定した土地であることから南部地域一帯は広く水田として利用されている。調査対象となった西一里塚遺跡IVは佐久市の根々井地区に所在し、湯川を望む台地縁に位置する。遺跡群内では過去に3回の調査がなされ、弥生後期の環濠を伴う集落址や南関東に系譜を持つ土器片が出土している。

今回、佐久市が行う中部横断自動車道路に関連する地域活性化インターチェンジ整備事業に伴い、試掘調査を実施した。その結果、対象地内において、弥生後期と考えられる遺構・遺物が認められたことから、佐久市教育委員会が主体となり、遺構の記録保存を目的として発掘調査を実施するのはこびとなった。

第2節 調査体制

調査受託者 佐久市教育委員会
 教育長 木内 清 (～5月)
 土屋盛夫 (5月～)

事務局

社会教育部長 内藤孝徳 (～6月)
 工藤秀康 (7月～)

社会教育部次長 金澤英人 (～6月)

文化財課長 森角吉晴

文化財調査係長 三石宗一

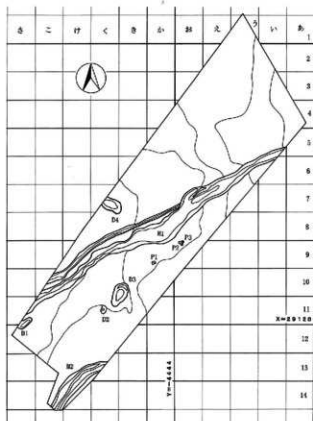
文化財調査係 林幸彦 並木節子
 須藤隆司 小林真寿
 羽毛田卓也 富沢一明
 神津格 (～9月) 上原学
 井出泰章 (10月～) 出澤力

調査担当者 富沢 一明

調査員 浅沼ノブ江 橋詰勝子
 小林妙子 林 まゆみ
 井出孝子 小山 功
 百瀬秋男 甘利隆雄
 山田英輝 油井満芳
 飯塚一男 小沢聡幸
 河原田三男 里見理生
 佐々木靖夫 澤井知春
 中澤 登 羽毛田利明
 本田慶二 阿部和人



西一里塚遺跡IV調査区・試掘トレンチ位置図 (1:3,000)



遺構配置図(1:500)



調査区全景 (西から)

第二章 遺構と遺物

第1節 溝状遺構

①M1号溝状遺構

本址は調査区を北東から南西に貫くように検出された。規模は検出長さ42m・幅4.3m・深さ25cmを測る。一部2本に分かれるが流水の作用により幅が広がり曲がったと考えられる。弥生後期の土器片が少量出土した。所産時期と用途は不明である。

②M2号溝状遺構

本址は調査区南端で検出され、規模は検出長さ10.4m・幅2.4m・深さ25cmを測る。微高地を弧を描くように掘り込まれており何らかの区画溝と考えられる。弥生後期土器片が出土した。

第2節 土坑

(単位m)

規模	長軸	短軸	深さ	形態	長軸方位
D1号土坑	2.24	0.88	0.28	長楕円形	N-48° - E
D2号土坑	1.12	0.64	0.32	楕円形	N-38° - E
D3号土坑	3.60	2.04	0.40	不整形	N-36° - W
D4号土坑	2.40	1.80	0.44	隅丸長方形	N-10° - E

第3節 ビット

ビットは3カ所確認され、規模はそれぞれP1が径40cm・深さ8cm、P2が径68cm・深さ12cm、P3が径28cm・深さ16cmをそれぞれ測る。出土遺物はなかった。

第4節 出土遺物

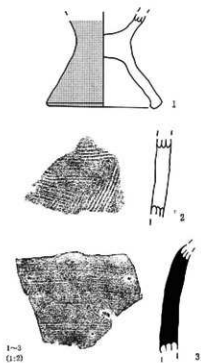
今回の調査では弥生後期の箱清水式土器を中心に土器類が出土したが量は少なく、器形を把握しうる物はなかったが、3点を図示した。



M1号溝跡（西から）

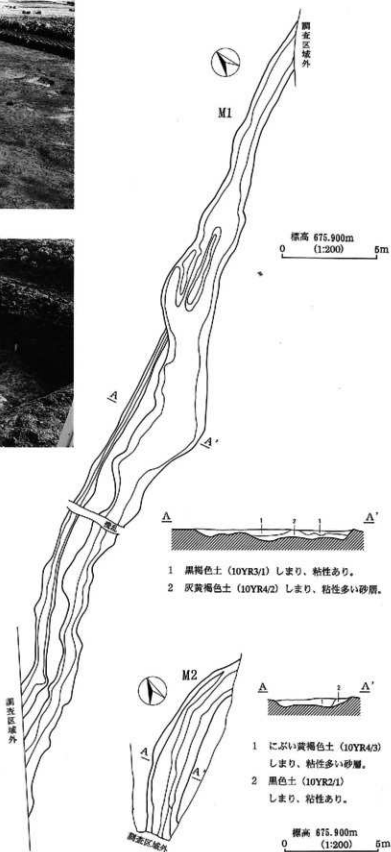


M2号溝跡（西から）



1-3
(1:2)

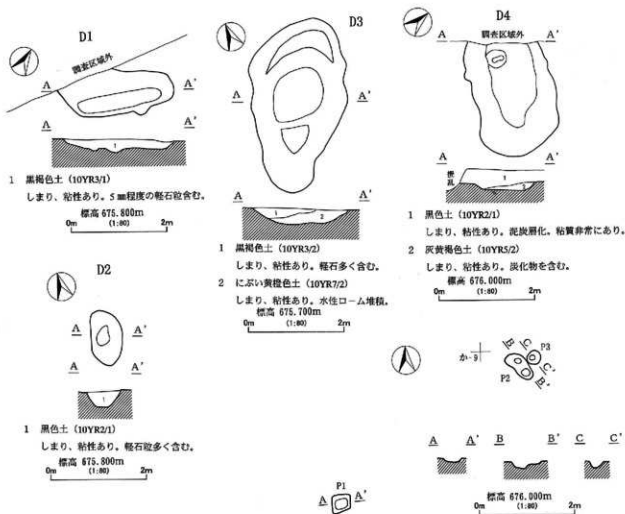
M1号溝跡出土遺物実測図



M1・2号溝跡実測図

No.	部種	形状	口徑(長)底徑(幅)	深高(厚)	内 面	外 面	残存率・部位	備考
1	弥生土器	高坏	-	-	(5.2) ヘタナデ	ナデ 赤色塗布	坏下部~底部	
2	弥生土器	甕	-	-	ナデ	縞縞羽状文	甕片	
3	灰土器	甕	-	-	ロタロヨコナデ	ロタロヨコナデ 自然障付甕	甕片	

M1号溝跡遺物観察表



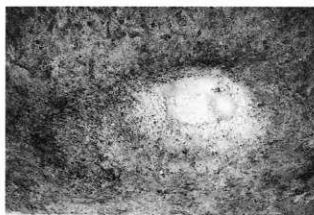
D1～4号土坑・ピット実測図



D1号土坑



D2号土坑



D 3号土坑



D 4号土坑



表土除去作業 (南西から)



調査風景 (南から)



調査区遠景 (東から)



調査区全景 (北東から)



1



2



3

M1号溝跡出土遺物

報告書抄録

ふりがな	にしいちりづかいせきぐん にしいちりづかいせきよん
書名	西一里塚遺跡群 西一里塚遺跡IV
副書名	長野県佐久市根々井西一里塚遺跡IV発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第180集
編著者名	富沢一明
編集機関	佐久市教育委員会 文化財課
所在地	〒385-0006 佐久市志賀5953 1n0267-68-7321
発行年月日	2010年(平成22年)3月29日
遺跡名	西一里塚遺跡IV
遺跡所在地	佐久市根々井字鈴の免1412-1.1413-1
遺跡番号	92
緯度	36° 15' 45"
経度	138° 27' 1"
調査期間	(現場) 平成21年12月2日～12月25日 (整理) 平成21年12月25日～平成22年3月29日
調査面積	917.62㎡
調査原因	佐久市高速交通課 地域活性化(インフラ)整備事業(中佐都IC)
種別	集落址
主な時代	弥生・奈良・平安
主な遺構・遺物	土坑、溝状遺構、ピット 弥生土器(箱清水式土器)・須恵器
要約	湯川に向けて微高地が検出され、弥生後期の箱清水式土器とともに溝状遺構と土坑が検出された。特にM2号溝状遺構は微高地側を囲むような形状であり、集落の区画溝の可能性が指摘できる。
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第180集

西一里塚遺跡群

西一里塚遺跡IV

編集・発行 佐久市教育委員会
 長野県佐久市中込3056
 文化財課
 長野県佐久市志賀5953
 電話 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社